

# 呉市医師会病院における 褥創治療の実際

～ラップ療法導入前後の比較検討～

呉市医学会 H21年11月15日



医療法人社団たつき会菅田医院  
菅田宗樹○

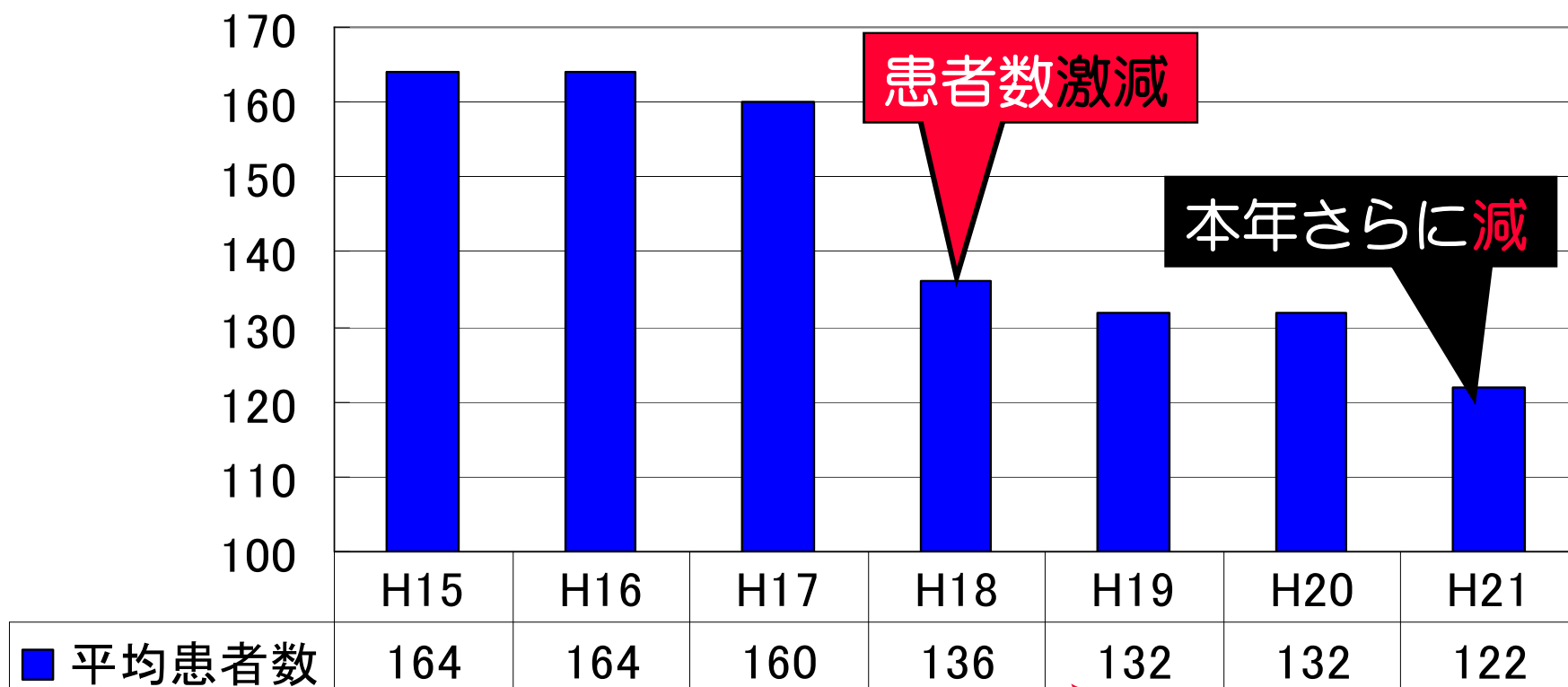
呉市医師会病院 褥創委員  
樋口由希美 野見山美沙  
森田佐智子 村田智美  
小玉ルミ子 土井田あや子

# 目的

- 医師会病院の状況報告
- 褥創関連状況について検討
- ラップ療法導入前後の比較
- 褥創治療に対する費用の検討
- 方向性(考察)と課題(まとめ)

# 医師会病院患者数と褥創治療の歩み

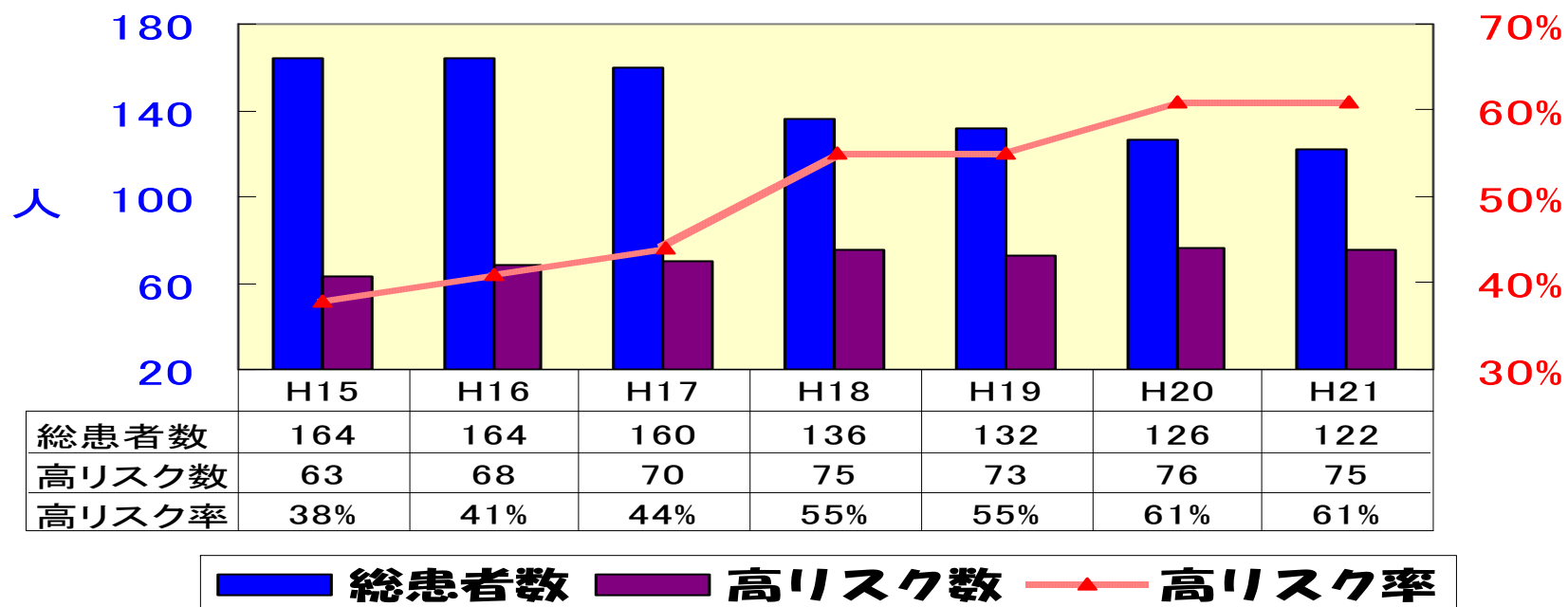
## 平均患者数



湿潤治療講演会

ラップ療法講演会

# 患者数と褥創高リスク患者数

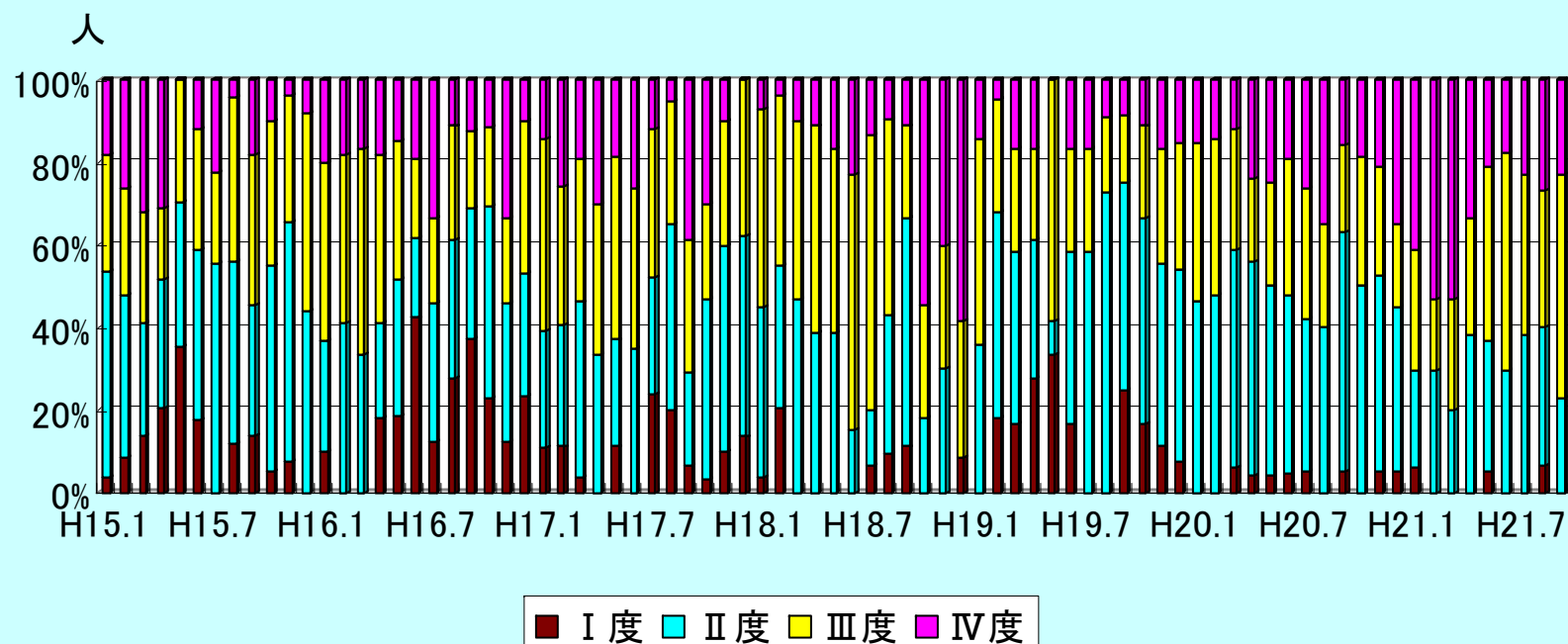


患者数は減少するが高リスク患者はやや増加傾向

⇒当然高リスク率は著しく増加

**患者数は減っても介助や身体ケアは減らない！**

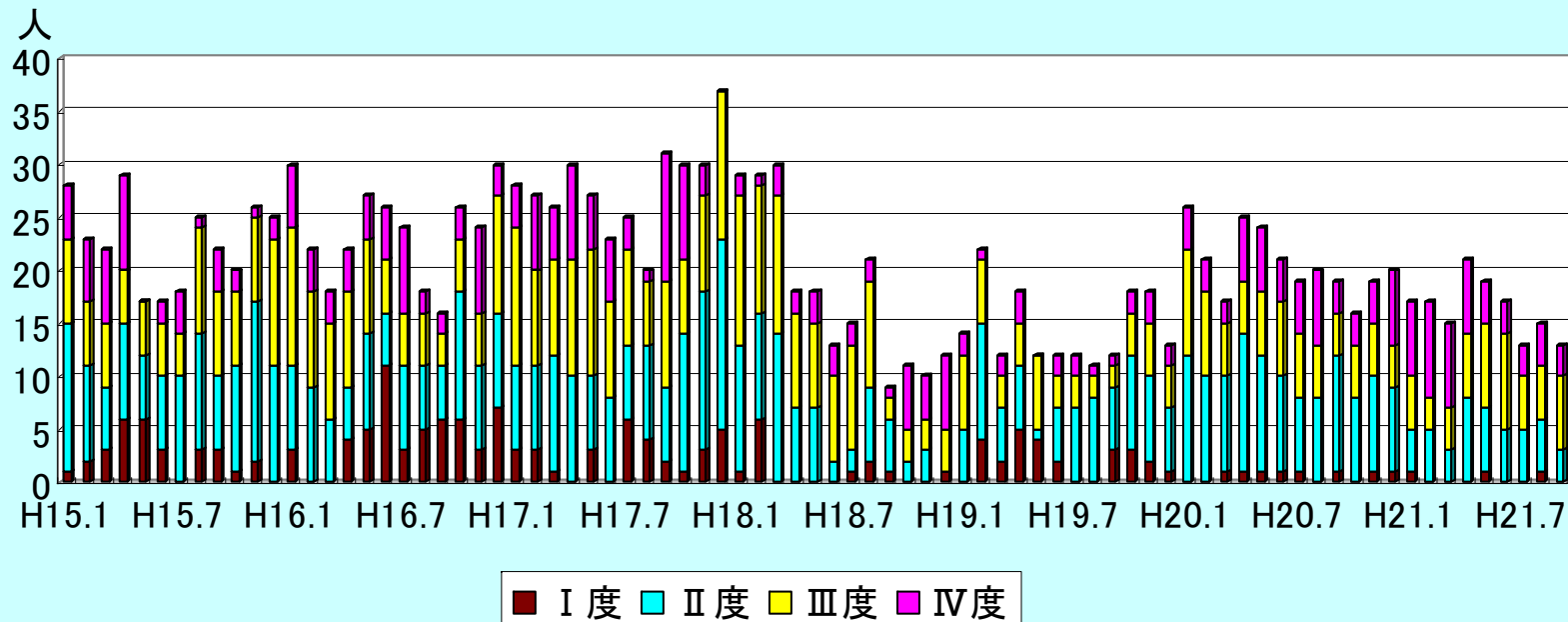
# 褥創症例進達度比率



近年重症症例の比率が増加

若干冬場に重症症例比率増加傾向

# 褥創進達度別患者数

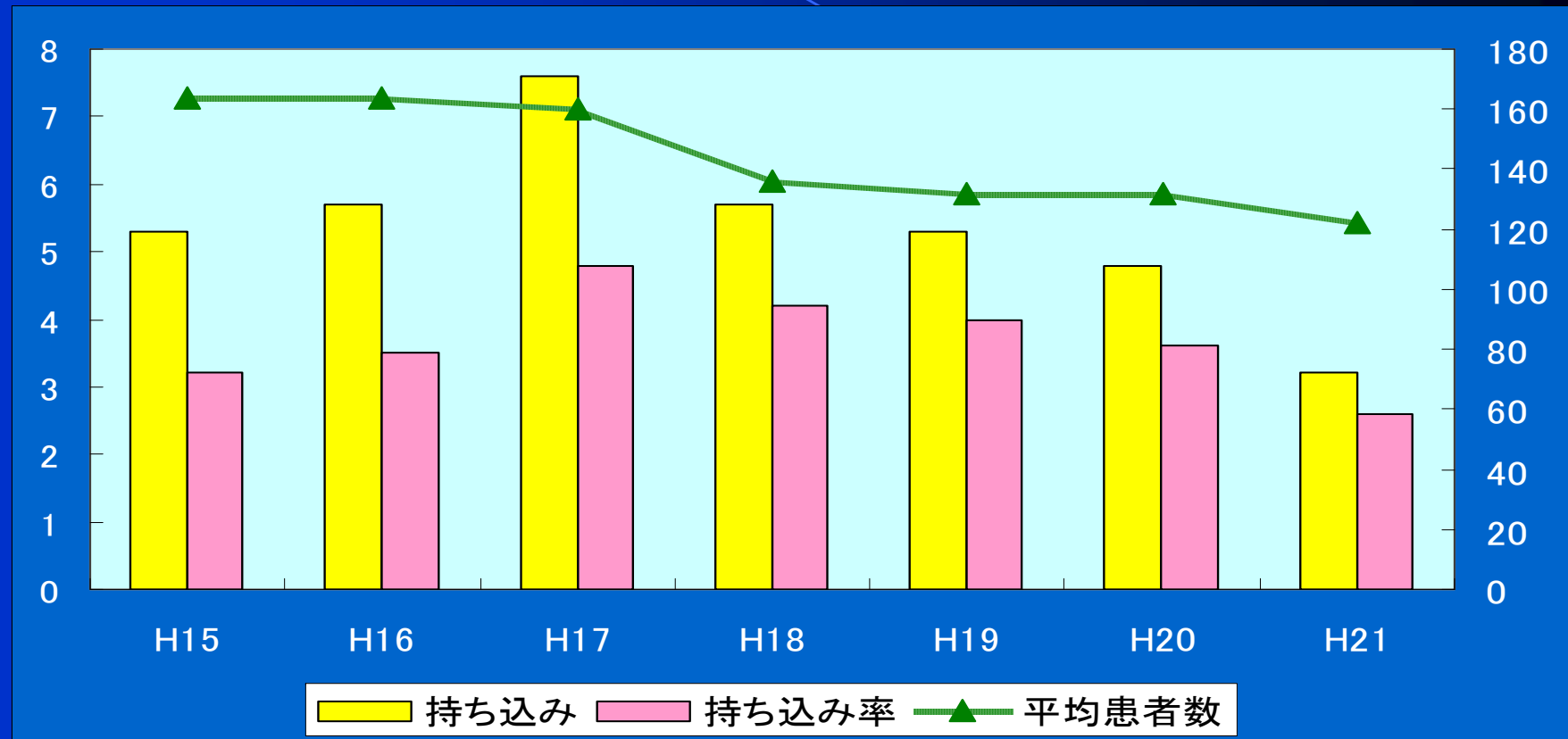


冬場に増加傾向

H18年春から減少傾向

平成20年以降のI度症例激減

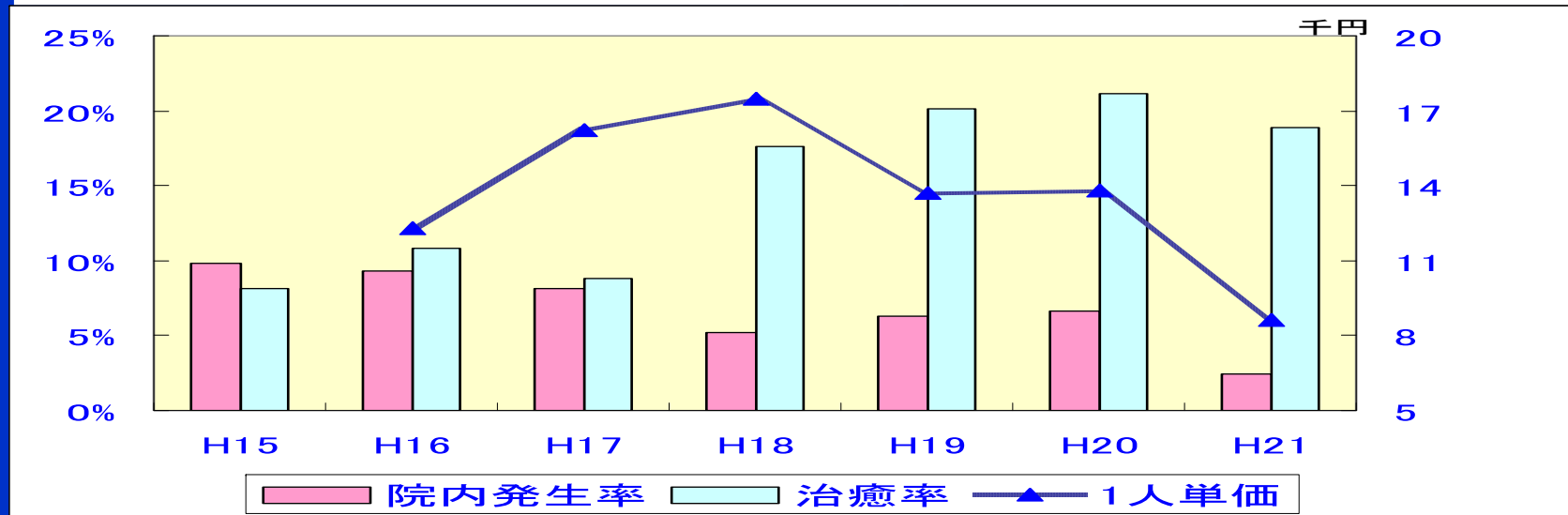
# 褥創持込患者推移



持ち込み症例数はH17年をピークに減少傾向  
患者数との関連を除外するため持ち込み率を算出

# 治療成績年間比較

年	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
エアマット普及率	34%	59%	78%	81%	78%	105%	114%



院内発生率は改善傾向、治癒率はH18年から顕著に改善

H17年より被覆材使用によりコスト増

H19年ラップ療法導入からコスト減

エアマットが約8割に到達し成績改善傾向



# 考察

- 患者数減少は医師数や紹介によるものと思われる。
- 患者数が減っても高リスク患者が減らなければ看護・介助の負担は減らない。(人件費が減らない)
- 冬場は血行障害などで褥創は悪化、増加傾向となる。
- 治癒・発生率が改善すると重度褥創患者が残り比率が増加。
- 環境や治療向上で軽症褥創は報告前に完治しデータ上減少。
- 持ち込み患者数は近年減少傾向にあり呉近郊の施設や在宅環境が整ってきたものと思われる。
- エアマットや被覆材の使用で治療成績は改善されラップ療法を取り入れることでコスト削減にもつながる
- コスト削減には人件費の占める割合が高く、環境を整えスタッフの医療充実が最も効率的な方法と考えられる

# まとめ

- 近年褥創を取り巻く環境は改善されつつ有り、治療の選択肢も増え、発生抑制や治癒促進につながっている。
- 今後院内のコスト管理をする場合は人件費をしっかりと評価することが大切で、褥創分野ではエアマット整備による予防と簡便かつ効率的な治療(ラップ療法等)により治療成績を改善することが大事である。
- 地域の診療レベルが改善・向上するためには医療機関や施設間での交流・研究会などの学びの場が必要である。